

様式1

令和6年度 学校評価表

志高く 未来を拓く 高西中教育 ～ 自立・協働・創造 ～																	
a ミッション 小中連携の推進による自立性・協働性の育成					a ビジョン 自己を認識し、自分の人生を選択し、表現することのできる生徒の育成					尾道市立高西中学校							
評価計画					自己評価					学校関係者評価					改善計画		
b 中期経営目標	c 短期経営目標	d 目標達成のための方策	e 評価指標	f 目標値	7月				g 結果と課題の説明	学校関係者評価			m 改善案				
					達成率	1月	4月	10月		校長	教員	保護者					
学力の向上	主体的な学びの実現	①個別最適な学び	①生徒アンケート「授業では、受け身にならず、自分から進んで学習に取り組んでいます」における肯定的評価	75%	65%			87%	B	○「自由進度学習」の実施や生徒の実態把握に基づいた授業展開 1学期は3回の研究授業を行い、指導案と単元構想図の作成を行った。また、教科によっては「自由進度学習」を取り入れ、生徒が主体的に、自らの力で考えていく授業を仕組んだ。	3	イ	ロ	ハ	○引き続き、「単元内自由進度学習」や生徒が自己選択・自己決定できる授業を行い、生徒が主体的に学ぶことのできる授業を展開していく。		
		・逆向き単元構想図・指導案の作成 ・授業の導入の工夫 ・子どもの声に耳を傾けながらの授業改善	②生徒アンケート「授業では、友達と話し合うなどして、自分の考えを深めたり、広げたりしています」における肯定的評価	88%	84%			96%	B							○学校目標の中の「自立」を達成するために、主体的に学び姿を目指す必要があることを生徒と再確認し、びざなで学び、自立していく必要があるのかを認識させる。	
		②協働的な学び ・生徒理解に基づく学習集団の育成 ・効果的な協働学習の設定	②学力調査（1・2学年は標準学力調査、3学年は実力テスト）の全国差4月からの変容	4月からの変容 5教科平均+2			92%	B	○基礎学力の定着の課題 学力診断問題(3年)において全国の平均に対して第1回から第2回の変容が国語が-3.6、数学が-1.2、英語が+2.5、社会が-1.6、理科が-4という結果になった。第2回の学力診断問題は難化した傾向にあるが、1・2年生で積み重ねてきた学力の定着に課題があると考えられる。今後は3年間の問題をまとめた問題集に取り組みせ、入試に備えた中学校の範囲の学習に慣れさせて行く必要がある。								
静まるときは整然と 弾むときは思い切り	生徒指導（支援）の充実	お互いの個性を認め合える集団の実現	③「いきかたナビゲーション（『いきナビ』）」の実施 ・キャリア・ログ「学びの地図」の活用 ・「なりたい自分」に近づくための理想とするロールモデルとの出会いの設定（キャリア講演会）	③生徒アンケート「自分の夢や目標、なりたい自分に近づくために自ら進んで努力することができている」における肯定的評価	75%	97%			129%	A	○「学びの地図」の作成といきかたナビゲーションの実施 特別活動の中で、全校学活を行い、「学びの地図」になりたい自分の姿を記入した。また、前年度に続き、いきかたナビゲーションを実施した。生徒にとっては自分の知らない生き方を知る機会となり、自分のなりたい姿に近づくための学びになった。しかし、目標値には達しておらず、今後もいきかたナビゲーション等は継続していくが、生徒がより自分事として講演の内容を理解し、自分の生き方に繋げていけるよう事前学習を各学級で行う必要があると考えられる。	3	イ	ロ	ハ	○いきかたナビゲーションの実施にあたり、今一度なぜ講師を招いて話をさせていただくのか、その意義について担任から講話をし、講演の後もまとめの時間を十分にすると、学びを深めるための時間を確保する。	
			①生徒にとっての安心・安全な居場所づくり ・お互いを支え合う集団づくりによる学級経営の充実 「学級力向上プロジェクト」による学級のカリマ 「モデルとしての教師」 「肯定的評価・フィードバック」 ・自己肯定感の涵養 「アセスと学級力アンケートによる生徒支援」 ・SSR「ほっとルーム」の活用 「相談する力」の育成 「自分の強みを知り生かす力」の育成	①生徒アンケート「自分たちの学級は、安心して生活できる学級です」における肯定的評価	80%	92%			115%	A							○安心・安全な居場所づくりに向けた取組の継続と充実 日々の授業をはじめ、3年生の「ええじゃん・SANSА・がり」、学校全体で取り組んだ体育大会などさまざまな教育活動において、生徒に寄り添い共感的・受容的な人間関係づくりを行うことで「お互いの個性を認め合える集団の実現」に向けて風土を醸成することができた。体育大会実施後の生徒アンケートでは、「体育大会は充実していた」についてアンケート項目では98.3%、「体育大会は楽しかった」については98.4%といずれも肯定的評価の割合が高かった。アセスにおいても、教師サポートが学校全体60.3ポイント、友人サポートが学校全体60.2ポイント（50ポイント以上の数値が適応感が高いことを示す）であり、教師と生徒間、生徒同士においても全体的に良好な関係性であることがわかる。 学級力アンケートでは、「自分たちの学級が、安心して生活できる学級です」において学校全体は、92.1%であるが各学級間でアンケートの数値に差が見られる。学級の取組だけでなく、実態に応じて学年や学校の組織として、取組を計画し、改善に向けて取組を進めていく必要がある。 主体的な学びの実現に向けて、その基盤となるよりよい学習集団の形成に向けて、学級力向上プロジェクトや日々の学級経営をより充実させていく必要がある。 OSSR「ほっとルーム」の活用による個に応じたきめ細やかな対応 昨年度より開設した「ほっとルーム」では、昨年度に引き続き、教室に入ることや学校にくることが難しい生徒など、ほっとルーム担当を中心に組織的にそれぞれの困り感や不安感に寄り添いながら、支援することができた。ほっとルーム担当を中心に、各学級の担任も空き時間にほっとルームで時間を共に過ごすなど、学校として組織的に取組を進めることができている。また、ほっとルームでの生活を通して、自分ですべきことを計画を立て、その計画に基づいて生活したり、物作りに励むなどそれぞれの強みを活かし、自分に自信をもつことができたり、新たな自分の良さを感じることができる場になっている。
			②学校行事、生徒会活動等をはじめとした「挑戦の機会」の充実と「感動体験」の共有 ・生徒が主体となる自治的活動の推進 「リーダーを中心とした集団づくりとフォローの育成」 「生徒の笑顔、元気を引き出す仕掛け」 ・問題の発見と共有から始まるプロセスを大切にしたい取組 「学級力向上プロジェクトの推進」 「各学級の状況に応じた学級活動の実施」	②各行事への生徒満足度（肯定的回答）	80%	98%			123%	A							○体育大会を通した「挑戦の機会」の充実と「感動体験」の共有 安心・安全な居場所づくりを基盤として体育大会では学校全体、そしてそれぞれの学級で取組を進めた。今年度も縦割りで実施し、3年生の団長をはじめとするリーダーを中心にさまざまな競技に取り組んだ。そのリーダーのがんばる姿から周りのフォロワーも自分の殻を破り、それぞれが力を出そうと取り組むことができた。今年度は「校歌」に重点を置き、大きな歌声で歌いきることを大切にしたい。「校歌」を大きな声で歌うことを通して、愛校心を高めスクールプライドを醸成するとともに、安心して大きな歌声を出すことができる集団づくりにも重点を置いて取り組むことができた。 ○学級経営のさらなる充実に向けて 学校教育目標の具現化に向けて、各担任が作成した学級経営計画に基づいて学級経営を進めた。学級のカリキュラムマネジメントを回すことができるよう学級力アンケートを基盤として取組を進めた。アンケート結果をもとにして学級の課題を話し合う話し合い活動は丁寧に実施することができたが、話し合って決めたことを丁寧に取り組むこと、それについての成果と課題を確認するなど、取組の「質」を学校全体として高めることが必要である。2学期も、1学期の成果と課題を踏まえて各学級の学級経営計画に基づき、学級担任だけでなく、授業に出る教師、学年団で組織的に取り組んでいく必要がある。
信頼される学校づくり	教育の質を高める働き方改革の実現		①めざす生徒像の実現 （自立した生徒・協働できる生徒・創造できる生徒） ・学年実態に応じて計画的に取組む	『学校の働き方アンケート』において、「日々の業務の中で充実感を得られている」と回答している教職員の割合	90%	84.6%			94%	B	3	イ	ロ	ハ	・努力がうかがえます。引き続き試行錯誤しながら、取り組んでいただければと思います。 ・どう考えても先生方の仕事量は多すぎる。高西は1クラスの生徒数が多いため、補助的に指導や作業をして下さる方がおられたら、少しは変わってくるのではと思うが、PTA会費から何かできる事があるのでしたら、協力させていただきたいです。水・金の短縮HR・授業がもう少し反映されたら、より良くなるのでは。 ・一部、目標値に達していない取組もあるが、教職員の熱心さの表われでもある。教職員が、一致団結していれば、良い教育ができると思う。以前は、休職される先生方も見受けられたが、若い教員のフォロー、サポートを重点的にし、仕事量は多くても働きやすい環境、行きたい職場を目指して、働き方改革を行っていただきたい。		
			②「チーム高西」での取組 ・全教職員で秩序と活力ある学校づくりに取り組む ・コミュニケーションを大切にする ・主任主事を中心として取組む ・教職員間で情報を共有する	『学校の働き方アンケート』において、「教職員間で業務の手助けなど、互いに頼みやすい雰囲気がある」と回答している教職員の割合（23/26人）	88%	96.2%			109%	A B						学年主任や主任主事を中心に計画的に取り組む、仕事分担をしている。また職員同士で声をかけをしながら、取組の確認をしている。 2学期以降も教職員間のコミュニケーションをしっかりと取り合い、チーム高西で様々な事に取り組んでいく。	
			③ワークライフバランスを意識した働き方の推進 ・水曜日をリフレッシュDAYとし、計画的に過ごす意識を高め、心身ともに元気な先生の姿に取組む	「リフレッシュDAYはリフレッシュするために18時までに退校」する割合	80%	42.3%			53%	D						生徒指導等があり、水曜日にリフレッシュDAYを実施できない事が多く、平均すると26名中11名が実施できた。 リフレッシュDAYの趣旨を再度確認し、計画的に取り組むことでリフレッシュDAYの実施ができるように呼びかけを継続していく。また、計画的な仕事の取組を行っている。	

【自己評価・評価】
A：100≦（目標達成）

B：80≦（ほぼ達成）＜100

C：60≦（もう少し）＜80

D：（できていない）＜60

【外部評価】 イ：自己評価は適正である。 ロ：自己評価は適正でない。 ハ：わからない。